

児童の立場から見た小学校音楽科における 歌唱共通教材の検討

虫明眞砂子 ・ 岸本 未有*

本研究は、小学校歌唱共通教材に対する児童が抱いている印象の調査及び、児童の音楽的嗜好の調査、併せて音楽教員の歌唱共通教材に対する捉え方も調査することにより、小学校音楽科における歌唱共通教材の新しい選定基準について検討するものである。

児童の調査では、小学校5・6年生を対象として実施し、歌唱共通教材に対する印象、教科書への掲載希望曲について調べた。また、音楽専科教員にも、歌唱共通教材についてインタビュー調査を行った。調査・分析から、今を生きる子どもにふさわしい曲について、以下5点の特徴が見出された。①メロディーがよい、②明るくリズムカルな曲調、③景色が浮かび、季節感のある曲、④歌詞のわかりやすさ、⑤詩やことばに共感できることである。また、児童は自身の嗜好をもとに曲の特徴を捉える力を有しており、それ故、自分でお気に入りの曲を見つけていることがわかった。従って、歌唱共通教材にも、主体的に曲選択の自由性をもたせ、子どもの嗜好に寄り添った選曲が必要である。

Keywords：歌唱共通教材，唱歌，教師，子どもの嗜好，印象調査

I はじめに

小学校音楽科において、昭和33年告示学習指導要領で示された歌唱共通教材という制度は、現行の平成29年告示学習指導要領まで60年余りにわたり継続されている。共通教材の大半は唱歌であり、明治期や大正期に作られた作品が多く、馴染みのある曲もあるが、聴き慣れない曲も多く含まれている。また、文語体の詩に対する違和感や今日の生活から当時の情景を想像することの困難さのほか、現代の私たちの身近にあるアップテンポの音楽とは大きく異なる歌も多数存在している。

中央教育審議会(2016, p.166)の答申によると、「教材や教育環境の充実」の中で、「音楽科、芸術科においては、我が国の音楽文化に親しみ一層の愛着を持つ観点から、我が国の自然や四季、文化、日本語の持つ美しさなどを味わうことのできる歌曲を取り上げるようにする。小・中学校音楽科においては、

我が国のよき音楽文化を、世代を超えて受け継がれるようにする観点から、引き続き、歌唱共通教材を示していく必要がある。なお、その選曲や指導の在り方については検討が必要である。」と示されている。中教審の答申を受けて、2018年度改訂の小学校学習指導要領においても、日本の唱歌は日本独自の文化であり、学校における音楽教育で日本の曲を取り扱う重要性が明記されている(文部科学省2017, p.130)。

ところで、音楽の授業で学んだ歌唱教材について、大学生はどのように認識しているのだろうか。大学生を対象とした曲の記憶状態に関する研究は多数存在している。近年の調査として、例えば、山本(2019)が行った大学生に対する小学校歌唱共通教材の認知度(歌ったことがある・聴いたことがある)についてのアンケート調査では、「日の丸」「越天楽今様」「冬景色」といった曲の記憶の程度は極めて低いことが

岡山大学学術研究院教育学域 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

*岡山市立東山中学校 703-8295 岡山市中区御幸町13-3

Examination of Common Teaching Materials for Singing in Elementary School Music Classes from the Viewpoint of Children

Masako MUSHIAKI and Miu KISHIMOTO*

Faculty of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Kita-ku, Okayama 700-8530

*Okayama City Higashiyama Junior High School, 13-3 Miyuki-Cho, Naka-ku, Okayama 703-8295

示されている(pp.38-42)。また、溝部・緒方他(2020)が行った歌唱共通教材の曲ごとの学習の記憶の調査では、学習した記憶がないと回答した割合が高い順から、「越天楽今様」「日のまる」「スキーの歌」「冬景色」「まきばの朝」となっている(p.32)。2022年度に虫明・岸本が行った教員養成学部小学校コース1年生112名を対象とした同様の調査でも、半数以上が「ほとんど知らない」と回答した曲をあげると、「越天楽今様」「日のまる」「冬げしき」「スキーの歌」「こいのほり」「まきばの朝」であった(資料1)。このように、大学生の歌唱共通教材に対する記憶状態は、概ね似通っているといえよう。これらの歌唱共通教材は、現代の児童の関心は低いと考えられるにもかかわらず、「越天楽今様」や現代には馴染みの無い文語を用いた七五調の「冬景色」は60年以上も採用されている。この状況下、児童が歌唱共通教材についてどのように感じているのか、主体的に歌唱できているのだろうか等の疑問が生じる。この疑問を元に、約60年近く継続されている歌唱共通教材について、児童の立場から再考する必要があるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、まず、歌唱共通教材の成立に至った過程を整理し、歌唱共通教材に対する様々な考え方について考察する。次に、小学生5・6年生(約200名)を対象として、現行の唱歌、教科書から外された唱歌、音楽専門家による提案曲、現在、子どもたちに親しまれている曲について印象調査を行い、更に、小学校教員を対象としたインタビュー調査を行う。これらの調査結果をもとに、小学校の音楽教科書の歌唱共通教材はどのような基準で選ぶべきなのか、今を生きる子どもたちに教える曲は、どのような曲が相応しいのかについて、児童の立場に立って検討する。

II. 歌唱共通教材の考え方

山本(2004)によれば、「学習指導要領で定められた音楽教材(楽曲)について、昭和33年告示では、各学年にわたって、共通の歌唱曲3曲と鑑賞曲3曲を含めて取り扱うことになっており、第6次学習指

導要領まで継続したが、第7次(平成10年告示)から、小学校の歌唱領域のみが対象となり、中学校の歌唱領域、小中学校の鑑賞領域における共通教材が廃止されている。そもそも、共通教材そのものが、他教科には存在していない。⁽¹⁾(p.318)とある。表1は、共通教材として示された学習指導要領の推移である。第7次(平成10年告示)以降の学習指導要領を見ると、鑑賞教材は、その後も小中学校とも廃止されているが、歌唱教材においては、第7次(平成10年告示)の学習指導要領で取りやめた中学校の歌唱共通教材が第8次(平成20年告示)の学習指導要領で復活し、以後、第8次(平成20年告示)以降は、小中学校の歌唱教材の共通教材のみが示されている。

歌唱共通教材の是非については、様々な音楽教育者によって議論されている。近年の研究としては、2014年、2015年に開催された音楽教育学会のプロジェクト研究で、歌唱共通教材がテーマにあげられている(津田他2014, pp.47-54)。2014年のプロジェクトでは、意義の問い直し(嶋田)、価値と指導方法についての検討(津田、江田)、たくさんの教材からの選曲の提案(中山)、尋常小学唱歌に見られる旋律作法や復活曲の提案(後藤)など、興味深い議論が行われている。翌年の2015年に行われたプロジェクトでは、小学校の現場の音楽教員がどのように歌唱教材を扱っているかに焦点が当てられている(酒匂他2015, pp.33-40)。小学校所属学会員を対象に嶋田が行った調査によれば、教員が見た児童の関心の様子が5段階で示されている(p.34)。高い関心の曲(5段階中の4と5)は、「もみじ」「茶摘み」「ふるさと」「春の小川」「さくらさくら」「虫の声」となっている。一方、関心度が低めの曲(5段階中の1と2)を見ると、「まきばの朝」「スキーの歌」「子守り歌」「冬景色」「越天楽今様」と続く(嶋田2015, p.34)。これらは、2022年に虫明等が行った大学生に対する認知度調査ともほぼ合致している(資料1)。また、嶋田が教員に対して行った「歌唱共通教材」のように扱ってはどうかと考える楽曲について尋ねた調査によれば、多種多様な曲名⁽²⁾が

表1 共通教材として示された学習指導要領の推移

共通教材の種類	告示 校種	昭和33年	昭和43年	昭和52年	平成元年	平成10年	平成20年	平成29年
		3次	4次	5次	6次	7次	8次	9次
歌唱教材	小	○	○	○	○	○	○	○
	中	○	○	○	○	×	○	○
鑑賞教材	小	○	○	○	○	×	×	×
	中	○	○	○	○	×	×	×

注：○は実施 ×は廃止

あり、「こどもが楽しんで学習できるかという視点が重視されていることが窺える」としている（嶋田2015, p.36）。しかし、これらの曲の大半は、対象の教員が幼少期に歌った童謡、唱歌、ポップス、合唱曲と考えられ、今を生きる児童の嗜好と一致しているとはいいがたい。大人が子どもたちにとって良いと感じる曲と、子どもたちが個々によいと感じる視点は当然異なるため、教材の選択は困難な問題といえる。また、このシンポジウムでは実践報告として、世代を超えて一緒に歌えることを生かす（酒匂他2015, p.36）、日本の伝統や文化などを、次世代を超えて伝えていきたい（狩野他2015, p.37）、日本人のアイデンティティを共有した傑作集として見直しを願う（村尾他2015, p.40）といった現行の歌唱共通教材を推奨する考え方も存在する⁽³⁾。一方、歌唱共通教材に関して問題点を指摘している音楽教育者の見解も多数見られる。主な音楽教育者の見解を年代の早い順から記載する（表2）。太字は筆者による。

これらの意見の傾向として、主に、共通教材の意義、教材選択についての2点にまとめることができる。1点目の共通教材の意義については、井上⁽⁴⁾（1967）の提唱した児童・生徒の実体験やこころを尊重した歌唱教材の選択を主張し、岩井（1969）は、力不足で熱心でもない教師のために、義務として共通教材が規定されているような印象を述べている。近藤（1977）は歌を共通教材として国家が規制することへの疑問、山本（1994）は、教育行政が科目の目標や内容だけでなく、楽曲までも指定している音楽科の在り方から、教材として義務化する必要性があるのかを問題視している。また、佐野（2006）は、長年共通教材として制定され続けてきたことによる固定観念や、そういった枠組みへの依存や甘えが影響を及ぼしていることについても言及している。鈴木・伊藤（2011）、権藤（2013）、吉富ほか（2016）のように、選定される楽曲がもつ教材としての価値を疑問視し、必修として取り扱う必要性を問う声もあがっていることがわかった。

2点目の教材選択について、河口（1991）は、もともと「道徳」や「情操」にかかわっていた文部省唱歌が共通教材に選定されたこと自体が問題であることをあげ、三好（2004）は、教材を選択するうえで絶対条件としてあげている、子どもの現実生活に即したものであることと、長い間親しまれてきている曲といった2点の条件を満たす曲を見つけることの難しさを言及し、子どもの発達段階や時代感覚に適しているかどうかを問題であることを指摘している。また、佐野（2006）は、歌唱共通教材制定当初

の真籐による不透明な選定方法についても問題視している。これらのことから、児童に適した特定の曲を指定することの困難さや歌唱共通教材の制定・選曲の経緯が不明確でありながら、継続的に取り組まれていることに対して疑問を抱いていることがわかった。その他、石井・虫明（2011）は、児童の興味関心に目を向けた学習の展開の必要性を述べ、歌唱共通教材の再考の必要性を述べている（p.66）。また、大地（2019）の調査によれば、歌唱共通教材を敬遠し、任意の歌唱曲（むしろ合唱曲）を選択しようとする現職教員が少なくない現状が示されている（p.9）。

歌唱共通教材の制定に大きな影響を与えた真籐（1986）は、「児童はいつとはなし好ましくない歌や音楽を口ずさむ（p.88）」とし、聴いて楽しむことのできる愛唱歌、愛好曲をもたせ、全国のどこの学校でも共通に歌える歌として共通教材の必要性を主張した。大人が希望する曲を児童に歌わせることは、児童自身が主体的に曲を選択する姿勢を尊重したうえで制定された教材であるとは言い難い。現行の学習指導要領解説では、共通教材など日本の歌を取扱うにあたって「わが国や郷土の音楽に愛着がもてるよう」との理由が新たに付け加えられている（文部科学省2017, p.129）。

しかし、歌唱共通教材の24曲は、児童の現況とはかけ離れていくばかりである。今までも、教科書から消えた唱歌があるように、これまでも多くの歌が生まれ、消えていっているように、歌というのは、時代の変化に応じて、消えていくものではないか。岩河は、「永遠の生命をもった歌」を作る努力をすべきとする一方、現代の子どもたちのテレビのコマソンの影響により、音楽の聴き方は出発点においてすでに相当の違いがあると述べる（岩河1972, p.89）。また、岩崎は、子どもは、歌が好きで、教科書、歌集やテレビで覚えた歌でも気に入った歌なら何でも良く、それらを自分なりの愛唱歌として大事にしていると述べる（岩崎1972, p.106）。すなわち、子どもの好きな曲を音楽授業でどのように取り入れるかという視点が重要になってくる。音楽を好きにするための指導法の手掛かりとして、古市は、教師側から児童が自分の感覚や判断で自由に選択できる余地を残しておくことを留意点の一つとしている（古市1977, pp.8-9）。また、NHKのテレビ番組「みんなのうた」を長年担当してきた後藤田が、「子どもは学校の音楽教室の中だけで歌を歌うのではない、生活のすべての場で歌を歌おうとしている」と指摘する（後藤田1977, p.95）ように、子ども自身が音楽を楽しみながら学習に向かえる音楽授業を目指すに

表2 歌唱共通教材の問題点を指摘する主な音楽教育者の見解

井上武の主張	「教材の価値を決定するものは作詞者や作曲者ではなく、また音楽の専門家や文部省でもない。結局は小・中学校音楽教育の実際に携わる音楽教師と、児童・生徒の心であるといえる。いかなる名曲も実際教育家と児童・生徒の実体験を通してのみ、初めてその教示としての価値が決定されるものである。唱歌教示として真に優良なものは、いかなる場合でも、これを児童・生徒の情操の門戸から拒否することはできない。」(井上1967,p.165)
岩井宏之の主張	「共通教材の選択基準が私には不満である。(前記の)歌唱共通教材を一瞥すると、教育熱心な教師の努力目標でなく、力が足りず熱心でもない教師の最低限度の義務が規定してあるような印象を受ける。」(岩井1969, p.50)
近藤幹雄の主張	近藤は、新学習指導要領の若干の疑問として3点述べている。「第三に、「共通教材」の項目が依然として残され、しかも指導要領音楽科の構成上実質的な重さを占めている点にある。これは共通教材個々の作品の良し悪しの問題ではない。良いものは必ず人々に歌い継がれていくであろうし、つまらぬものは自然に減っていくのが芸術作品一般の姿であって、これを国家が規制するべき性格のものではない。」(近藤1977, p.31)
河口道朗の主張	「選定された楽曲の大半は、過去においてある一定の役割を果たした歌、あるいはいわゆる「名曲」であって、言うならば、そうした「歌」や「名曲」を日本全国の地域の学校でも教材として取り扱うことによって、つまりは「日本人」としての「情操」の豊かな人格の形成を目指す目的をもって改訂されたと言える。要するに、「共通教材」としての「文部省唱歌」と「名曲」は、子どもたちの生活現実をつきうごかし、心情をふくらませ、イメージを豊かにする、つまり芸術的な音楽一教材でないことだけは論理的に明白である。殊に、「文部省唱歌」は、もともと、「道徳」や「情操」の範疇にあった唱歌であり、それらがあらためて選定されたこと自体問題であったわけである(河口1991, p.314)。中略。「共通教材」は、戦後の学校音楽の歴史において、きわめて重大な問題を残したことになるのである(河口1991, p.315)
山本文茂の主張	「そもそも教育行政が音楽科教育の目標や内容だけでなく、教科となる楽曲までも規定してしまうことなど、他教科には考えられないことであり、それ自体論議の対象になどなりえないからである。中略。共通教材の存在をめぐって、また、その芸術的な価値の認識をめぐって、学術的レベルで、あるいは実践研究として、熱く厳しい「論争」をこれから繰り広げなくてはならない。子どもたちのために。」(山本1994, p.160)
三好恒明の主張	三好は、音楽の授業では教材となる曲がどのような曲であるかが決定的な意味を持つていて、歌唱教材の選択について、教育的な視点(教材性)と音楽性の2つの視点を挙げている。教材性について、子どもの現実生活に即した教材の選択が絶対条件であり、学習指導要領の選曲の基準(長い間、親しまれてきている曲)の両者の条件を満たす曲を見つけることはきわめて難しいと述べている。音楽性については、芸術的な価値に根ざした教材かどうかを言及しているが、教材選択者の主観だけでなく、音楽的な発達段階や時代感覚に適しているかどうかの問題であると指摘する。(三好2004, pp.234-235)
佐野靖の主張	「真篠が述べている共通教材の選定に先立って文部省が行った<指導や実験>が不透明であることは確かであり、妥当性のあるデータを導き出せるような実践研究の蓄積が不十分であったことは間違いない(p.115)。共通教材という存在が長年にわたり培ってきた指導に対する固定観念、あるいはそうした枠組みへの依存や甘えが、そこに何らかの影響を及ぼしていることは間違いない。」(佐野2006, p.119)
鈴木・伊藤の主張	「音楽グローバル化しているからこそ、日本人としての心の歌を指導する必要であるとする論も成り立たなくはないが、むしろ子どもたちの心を捉えることのできない教材では、指導の意義すら失われるであろう。中略。学習指導要領という法的拘束力によってほぼ「必修教材」として扱われていることについては、少々無理があると言わざるを得ない。」(鈴木・伊藤2011, pp.182-183)。
権藤敦子の主張	権藤(2013)は、明治末から大正にかけて発行された、尋常小学読本唱歌、尋常小学唱歌、新訂尋常小学唱歌の楽曲が、第二次世界大戦中の国民学校芸能科音楽にも引き継がれているとしたうえで、次のように述べる。「学習指導要領によって歌うことが義務づけられ、共通教材が固定化していく流れのなかで、それらの楽曲を『我が国のよき音楽文化』として教育課程のなかに具体的に規定して受け継いでいく意味があるかどうかは、これからの研究で明らかにしていく必要があると考える。」(権藤2013, p.43)
吉富・三村・伊藤・徳永の主張	「教育的目的達成つまり学力の達成のために必要な教材に、特定の楽曲を指定して「共通教材」として、その学習を義務化する必要はどこに存在するのだろうか。例えば、小学校第1学年の「歌唱共通教材」である<うみ>は、いかなる教育的目的の達成のために、どのように有益なのであろうか。」(吉富・三村・伊藤・徳永2016, p.16)

は、児童に寄り添った内容・音楽を持った教材であることが必要である。

このように、歌唱共通教材については、制定基準が明確でなく、児童の嗜好と共通教材との隔たり、教員側の共通教材に対する多面的な考え方等、教材の取り扱いの難しさが指摘されている。

Ⅲ. 小学校5・6年生を対象とした質問紙調査及び印象調査：1回目調査

1. 現行の歌唱共通教材に対する質問紙調査

(1) 目的と方法

目的：唱歌に対して子どもたちが興味・関心に向け

る点や嗜好を明らかにする。

方法：実施者が事前に歌唱共通教材24曲を歌い(伴奏付き)、録音する。調査では、録音を1曲ずつ流したあとに所定の質問紙調査に記入してもらう。

(2) 質問紙調査の概要

実施時期：2022年3月から5月

実施場所：岡山大学教育学部附属小学校音楽室

対象者：5学年100人、6学年100人 計200人

内容：児童が普段好んで聴いている歌及び現行の歌唱共通教材24曲に対する印象調査

倫理的配慮：調査用紙により収集する個人情報には学年のみとし、データは個人が一切特定されないものとする。また、本調査により児童を長時間拘束し負担をかけることのないよう、時間配分には十分配慮して行う。

(3) 調査結果

1) 児童が普段好んで聴いている歌、歌っている歌とその理由

参考のために、児童が普段親しんでいる曲を調査すると、大半がJ-POPやK-POPで、229種、365曲に上った(表3)。その中でも、英語またはローマ字で表記されているタイトルの楽曲が54曲、全229種のうち約23%を占めている。選択した曲は個々に異なっており、他者と重ならない曲の数は178曲

にもものぼった。あげられた曲について、子どもたちは図1に示すように、特に「メロディー」、「テンポ」や「リズム」といった音楽的要素を自分なりに感受して、音楽を聴いていることがわかった。

上位曲の大半は、令和にヒットした曲である一方で、「残酷な天使のテーゼ(1995年)」「キセキ(2008年)」「世界に一つだけの花(2002年)」「天体観測(2002年)」「マツケンサンバ(2004年)」「3月9日(2005年)」など、自分たちが生まれる前の曲も知っており、聴いていることがわかった。中には、「魔王」「魔笛」のようなクラシック曲も見られた。これらの曲を見ると、リズムやテンポがよく、時流に乗ったメロディーのよいものが多数含まれている(図1)。普段好んで聴いている曲は、自由にかつ主体的に選曲していると推察される。普段好んで聴いている曲の

表3 5・6年生が普段好んでいる曲(1人2曲以内まで)

曲名	件	曲名	件	曲名	件	曲名	件
夜にかける	15	boy with luv	1	カントリーロード	1	名残雪	1
怪物	11	Dynamite	1	江南スタイル	1	夏色ビードロ	1
群青	8	Feel Spwcial	1	きのこの歌	1	なにわラッキーボーイ	1
ベテルギウス	8	FIRE	1	君に夢中	1	何なんw	1
三原色	7	Holl Holl	1	君をのせて	1	にじ	1
WADADA	6	I like it	1	キャラクター	1	にせもの人間40号	1
感電	6	I really like you	1	キング	1	にゃんこ大戦争	1
残響散歌	6	Inori	1	グッバイ宣言	1	猫	1
ともに	5	KING	1	ぐれんの弓矢	1	猫のリセット	1
CRY BABY	5	Meal	1	クロノシスタス	1	ねてくんBGM	1
神っぽいな	5	O.O	1	限界突破サバイバー	1	ノーダウト	1
カメレオン	5	Orangestar	1	桜ひとひら	1	ハートビート	1
きらり	5	PAKU	1	サザンカ	1	はしりがき	1
水平線	5	Pretender	1	サチアレ	1	花	1
ドライフラワー	5	Queen	1	さよなら、ありがとう	1	花占い	1
春を告げる	5	R・Y・U・S・E・I	1	さよならの意味	1	花束のかわりに	1
ヨワネハキ	5	Remember me	1	ざんげまいり	1	メロディーを	1
Butter	4	save me	1	さんぽ	1	はなればなれの君へ	1
ASOBO	3	shape of you	1	シニタイチャン	1	パラサイト	1
MELA!	3	silver spoon	1	ジブリの曲(千と千尋など)	1	ぼんぼんざい tiktokメドレー	1
命に嫌われている	3	starting now ~新しい私へ~	1	シャルル	1	ピースサイン	1
比べられっ子	3	Sucker for you	1	宿命	1	フィリーバスター(BGM)	1
残酷な天使のテーゼ	3	Surger	1	ジュピター	1	不可幸力	1
Butterfly	2	take a picture	1	笑点のテーマ	1	ブラザービート	1
Chopstick	2	Tamed-Dashed	1	シルベボシ	1	ふるさと	1
Into the night	2	TANK	1	白いブランコ	1	プレイバック	1
Lemon	2	The feels	1	死を賭して	1	ぼくらがおろかなんでだ れが言った	1
make you happy	2	the truth antold	1	シングフォーユー	1	ぼくらが強く	1
ON	2	tiktok ウィンター	1	心臓を捧げる	1	ボヘミアンラブソディ	1
Permission to Dance	2	Tokimeki	1	スカーレット警察24時	1	魔王(シューベルト)	1
Stay	2	Tomorrow never knows	1	スキスキ星人	1	摩訶不思議アドベン チャー	1
step and a step	2	Toxic	1	スリラー	1	又三郎	1
アンコール	2	treasure	1	正解	1	まちがいさがし	1
アンパンマンマーチ	2	TT	1	青春チョコレート	1	祭り	1
うっせえわ	2	U	1	世界はあなたに笑いかけ てる	1	魔笛(モーツァルト)	1
ガチやべえじゃん	2	Yummy	1	千本桜	1	ミスター	1
キセキ	2	会いたくて	1	ぞうさん	1	ミックスマッツ	1
恋	2	愛をこめて花束を	1	それを愛と呼ぶならば	1	土産話	1
3月9日	2	青と夏	1	大正浪漫	1	未来へ	1
シル・ヴ・プレジデント	2	明かり	1	タイミング	1	メラメラ	1
世界に一つだけの花	2	アゲハ	1	題名のない今日	1	もう少しだけ	1

天体観測	2	あしゅらちゃん	1	ダイヤモンドスマイル	1	もしも命が買えたなら	1
白日	2	アニマル	1	ただ声一つ	1	もしもしかめさんの歴史 替え歌	1
裸の心	2	アルデバラン	1	正しくなれない	1	ユメヲカケル	1
花に亡霊	2	イージーゲーム	1	小さな恋のうた	1	ゆれてゆく	1
秒針を噛む	2	命の食べ方	1	沈丁花	1	陽キャjkに憧れる 陰キャjkの歌	1
紅蓮華	2	イミグランドソング	1	テクノポリス	1	夜な夜な夜な	1
炎	2	色はにおえど散りぬるを	1	でっきこないをやらなくちゃ	1	夜のピエロ	1
ベノム	2	ヴァンパイア	1	デンジャー・ゾーン	1	ラ・カンパネラ	1
マツケンサンバ	2	宇宙の危機! スターフィクバスター	1	ときめきブローカー	1	ラブユーオンリー	1
やってみよう	2	エリート	1	ドナドナ	1	ラララコッペパン	1
ワライカタ	2	大きな古時計	1	ドメスティックバイオレンス	1	レイジングマーク	1
115万kmのフィルム	1	踊	1	ともに	1	レンズ	1
I am	1	おもかげ	1	ドラえもん(星野源の)	1	ワライカタ	1
Bad apple! Feet namico	1	カイト	1	ドラクエ 11の行動中の曲	1	ワンダーランド	1
Battle of Pride	1	かくれんぼ	1	トリセツ	1	未記入	11
Black Journey	1	紙飛行機	1	トンデモクンダーズ	1		
BOY	1	神田川	1	ないないばかりてい	1		

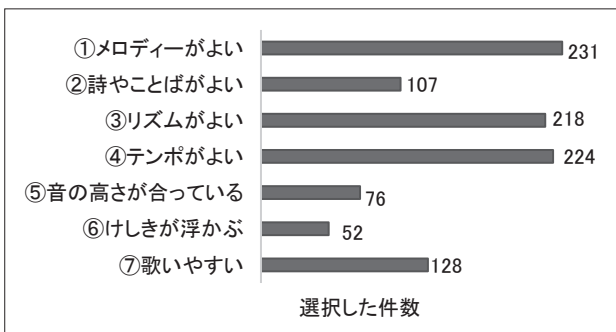


図1 子どもが親しんでいる曲の好きなどころ

中に、歌唱共通教材は入っていなかった。

2) 歌唱共通教材の歌いたい曲・歌いたくない曲とその理由

親しんでいる曲の中に歌唱共通教材は入っていない状況であったが、共通教材24曲を聴いてもらった上で印象を調査した。本調査では、児童は「歌いたい」「あまり歌いたくない」「どちらでもない」の3項目から選択している。ここでは、「歌いたい」と積極的に感じた児童数をより明確にするため、「どちらでもない」と「あまり歌いたくない」の2項目を合わせて%で表記している。すると、50%以上の子どもが「歌いたい」と回答した曲は、回答率が高い順から「春がきた(2年生)」「スキーの歌(5年生)」「もみじ(4年生)」「ふるさと(6年生)」「とんび(4年生)」「さくらさくら(4年生)」「茶つみ(3年生)」の7曲あった。2年生で歌う「春がきた」が非常に多く、明るく、リズムカルな曲や季節感のある曲を好む傾向が窺える(表4)。

5年生で歌う「スキーの歌」や4年生で歌う「もみじ」といった、前の学年で学習した曲が印象に残りやすいのではないかと考えられる。そして、5・6年生ともに調査当時は未学習であるが、好きな曲としている「ふるさと」は、学校外でも耳にする曲となっていることが窺える。

他方、わらべうたや日本古謡等6曲は、「歌いたい」という回答は30%以下であった。回答率が低い順から「越天楽今様(6年生)」「子もり歌(5年生)」「冬げしき(5年生)」「うさぎ(3年生)」「かくれんぼ(2年生)」「ひらいたひらいた(1年生)」があげられる。日本古謡やわらべうた、「冬げしき」のような文語体で使用された歌詞の曲が好まれない傾向にあるのは、現代の曲と比べて馴染みのない日本の五音音階や楽曲の内容に親しみを感ぜづらいこと、歌詞のわかりづらさゆえ、好まれない傾向であるのではないかと推察される。

ここで、選択肢「どちらでもない」を「歌いたい」という気持ちになれないと解釈して、2つの選択肢「あまり歌いたくない」と「どちらでもない」をまとめて、歌うことに消極的な選択肢と見なすと、5・6年生で消極的な選択をした割合が半数を超える曲は、24曲中17曲に及んだ。即ち、共通教材のうち70%の曲は、児童にとって少なくとも「歌いたい」という気持ちになれない曲と考えられる。

次に、歌いたいと思った理由を図2に示す。理由は図2に示した7項目より3つまで選択してもらった。⑤「音の高さが合っている」の項目以外は大きな差が見られなかったが、その中でも、①「メロディーがよい」、⑥「けしきが浮かぶ」という2項目が曲のよさとして1番多く選ばれており、50%程度の児童が好意的に感じていることがわかった。次に③「リズムがよい」、②「詩やことばがよい」、⑦「歌いやすい」、④「テンポがよい」等のよさを感じ取っていることがわかった。「歌うと明るくなる」という感想も複数見られた。また、⑥「けしきが浮かぶ」が多く選ばれていることについては、唱歌の特性として、日本の景色を取り扱っている内容が多いことから、音楽授業での昔の日本の風景の説明や動画等により、児童自身が歌詞を理解する力が向上

表4 歌唱共通教材の嗜好

項目 曲名	歌 いた い (人)	あ ま り 歌 い た く な い (人)	ど ち ら で も な い (人)	歌 いた い (%)	あ ま り 歌 い た く で も な い (%)
春がきた	152	26	22	76	24
スキーの歌	134	33	33	67	33
もみじ	132	38	30	66	34
ふるさと	131	36	33	65.5	34.5
とんび	117	42	41	58.5	41.5
さくらさくら	106	60	34	53	47
茶つみ	105	50	45	52.5	47.5
われは海の子	98	51	51	49	51
日のまる	96	53	51	48	52
夕やけこやけ	94	48	58	47	53
うみ	92	61	47	46	54
まきばの朝	91	45	64	45.5	54.5
おぼろ月夜	86	53	61	43	57
虫の声	82	60	58	40.5	59
春の小川	81	66	53	40.5	59.5
ふじ山	72	61	67	40.5	64
こいのぼり	71	68	61	35.5	64.5
かたつむり	64	88	48	32	68
ひらいたひらいた	60	91	49	30	70
かくれんぼ	56	93	51	28	72
うさぎ	46	109	45	23	77
冬げしき	45	76	79	22.5	77.5
子もり歌	44	82	74	22	78
越天楽今様	37	116	47	18.5	81.5

注：N=200 %の表示の欄は、「歌いたい」とそれ以外の「あまり歌いたくない」+「どちらでもない」の2群で示している。それぞれ、50%以上に、網掛けをしている。

しているのではないかと推察できる。たとえば、「暗い」、「低くてこわい」、「悲しい」、「寂しそう」といった曲調に関するものや、題名や歌詞のわかりにくさに触れるものなどがいくつかあげられているほか、「今の曲とかなりはなれている」「演歌みたい」といった意見も見られた。「古くささ」を感じる唱歌の曲調

しているのではないかと推察できる。たとえば、「暗い」、「低くてこわい」、「悲しい」、「寂しそう」といった曲調に関するものや、題名や歌詞のわかりにくさに触れるものなどがいくつかあげられているほか、「今の曲とかなりはなれている」「演歌みたい」といった意見も見られた。「古くささ」を感じる唱歌の曲調

や歌詞の内容といった特徴を、児童は児童なりに感受し、唱歌を「演歌みたい」な曲だと感じているように、「自分よりも年代が上の大人が聴いたり歌ったりする曲である」と捉えているのではないかと推察する。

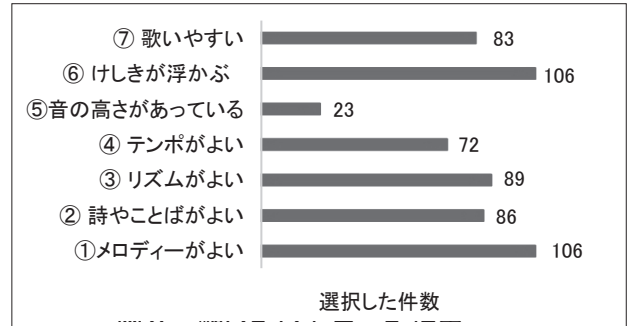


図2 歌いたいと思った理由

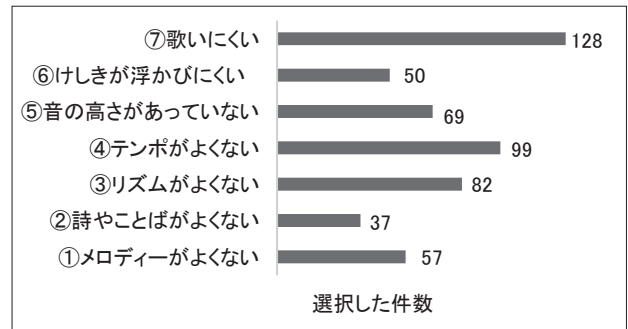


図3 歌いたくないと思った理由

3) 教科書に載せてほしい曲とその理由

児童が教科書に載せてほしい曲(表5)と児童が普段歌っている曲・好きな曲(表3)で、5人以上が選択した曲を比較すると、その結果は、ほぼ一致している。また、選択した曲は個々に異なっており、他者と重ならない曲の数は107曲にもものぼった。

注目したいのは、教科書に載せてほしい曲の設問に対して、未記入もしくはなしと回答した児童が、118人と6割近く存在したことである。児童が普段歌っている曲・好きな曲に対する未記入は11人であったことから(表3)、どのような曲が教科書に載るものなのか判断できなかった児童が多かったのではないかと推察できる。一方、「鉄道唱歌」を記入した児童が1名存在している。この唱歌は、明治33年(1900年)に作曲された、日本各地の駅の地名が入った文語体の唱歌である。有名な第1集の東海道編は66番までである。これを希望した児童がいたことは興味深い。このように、大半の児童は、音楽教科書にも日ごろ聴いているポップス曲が掲載されることを希望している一方、どのような曲が適しているのか難しいと考えていると思われる。

(4) 1回目調査まとめ

小学校5・6年生を対象とした現行の歌唱共通教材に対する質問紙調査及び印象調査の結果について、以下のような傾向にまとめることができる。

- ①児童が普段好んで聴いている曲は、大半がJ-POPやK-POPで、リズムやテンポが速く、のりやすい曲やメロディーが覚えやすくものが含まれている。
- ②50%以上の子どもが「歌いたい」と回答した唱歌は、回答率が高い7曲は「春がきた(2年生)」、「スキーの歌(5年生)」、「もみじ(4年生)」、「ふるさと(6年生)」、「とんび(4年生)」、「さくらさくら(4年生)」、「茶つみ(3年生)」の7曲あった。一方、児童があまり歌いたくない歌唱共通教材は、「子もり歌(5年生)」、「越天楽今様(6年生)」、「うさぎ(3年生)」といった日本古謡のほか、文語体で作詞された「冬げしき(5年生)」

であった。

- ③歌いたいと思った理由については、「メロディー」、「けしきが浮かぶ」という点が曲のよさとして一番多く選ばれている。
- ④「歌いたくない」と思った理由については、64%の児童が「歌いにくさ」を指摘しており、「テンポ」や「リズム」、「音の高さ」がよくないと感じている。
- ⑤教科書に載せてほしい曲と普段歌っている曲はほぼ一致した一方、未記入の児童が6割近く存在した。

IV. 小学校5・6年生を対象とした教科書から消えた唱歌及び提案曲の印象調査：2回目調査

1. 教科書から消えた唱歌に対する質問紙調査

(1) 質問紙調査の目的と方法

目的：昔の音楽教科書に載っていた唱歌、音楽専門

表5 児童が選んだ教科書に載せてほしい曲

曲名	件	曲名	件	曲名	件	曲名	件
夜にかける	18	official 髭男dismの曲	2	デンジャー・ゾーン	1	神田川	1
残酷な天使のテーゼ	8	なし	2	鉄道唱歌	1	カメレオン	1
ともに	7	忘れじの言の葉	1	テクノポリス	1	歌詞のない流行っている曲	1
きらり	7	ユニバース	1	できっこないを やらなくちゃ	1	ガーシュウィンの曲 ラブソディーインブルー等	1
怪物	7	木星	1	剣の舞	1	踊	1
ベテルギウス	7	燃えよ	1	つばめ	1	エリート	1
群青	6	もう少しだけ	1	翼をください	1	イージーゲーム	1
神っぽいな	6	メラメラ	1	月のわ(月の椀?)	1	アルプス一万尺	1
ヨワネハキ	5	土産話	1	沈丁花	1	アルデバラン	1
三原色	5	ミスター	1	小さな恋のうた	1	嵐の曲	1
BTSの曲	5	まりつき	1	魂のルフラン	1	あの夢をなぞって	1
ドラえもんの歌 ([のび太の宝島])	4	マリーゴールド	1	ただ声一つ	1	足取りも軽やかに	1
栄光の架橋	4	マツケンサンバ	1	題名のない今	1	赤鼻のトナカイ	1
やってみよう	3	迷子の子猫ちゃん	1	それを愛と呼ぶならば	1	We will rock you	1
春を告げる	3	ほたるの光	1	ぞうさん	1	toxic	1
にゃんこ大戦争 BGM	4	ボーカロイドの曲	1	千と千尋の神隠しの曲	1	smile ~晴れ渡る空のよ うに~	1
ドライフラワー	3	フリはだれのもの	1	セブンスター	1	Remember me	1
感電	3	ブラザービート	1	世界に一つだけの花	1	R・Y・U・S・E・I	1
うらじゃ	3	藤井風の曲	1	正解	1	Prince	1
アンパンマンマーチ	3	しまわりの約束	1	スカイピースが作った曲	1	MELA!	1
lemon	3	ひとりりんぼエンヴィー	1	スカーレット警察 24時	1	make you happy	1
ワライカタ	2	ひこうき雲	1	水平線	1	inori	1
ミライチズ	2	パレード	1	人生のメリーゴーランド	1	friends	1
ミックスマッツ	2	パラボラ	1	白いブランコ	1	Don't stop me now	1
祭り	2	早口言葉の歌	1	シルベボシ	1	CRY BABY	1
炎	2	パブリカ	1	ショパンエチュード OP 10-1 ~ 10-12	1	butter	1
不思議	2	はなればなれの君へ	1	笑点のテーマ	1	Boy with luv	1
大正浪漫	2	花	1	ジュピター	1	Black Journey	1
宿命	2	裸の心	1	シャルル	1	Bad apple	1
さんぽ	2	はしりがき	1	シニタイチャン	1	ASOBO	1
グッバイ宣言	2	猫	1	三大ソナタ	1	Answer:Love Myself	1
カントリーロード	2	西野カナの曲	1	残響散歌	1	3時03分 (実際は数字の間に:)	1
カイト	2	にじ	1	さよならの意味	1	なし	1
大きな古時計	2	名残雪	1	サチアレ	1	365日の紙飛行機	1
命に嫌われている	2	勿忘	1	桜ひとひら	1	未記入	116
会いたくて	2	ナイトオブナイツ	1	くらはしヨエコの曲	1	なし	2
YOASOBIの曲	2	ドラクエの曲	1	今日の日にさようなら	1		
U	2	天体観測	1	君に夢中	1		

注：未記入となしに網掛けをしている。

家による提案曲に対して、子どもたちが興味・関心を向ける点や嗜好を明らかにする。

方法：実施者が事前に唱歌8曲と提案曲5曲を歌い（伴奏付き）、録音する。録音を1曲ずつ流したあとに所定の質問紙調査に記入してもらう。

(2) 質問紙調査の概要

実施時期：2022年5月から6月

実施場所：岡山大学教育学部附属小学校音楽室

対象者：5学年98名、小学校6学年101名
計199名

内容：教科書から消えた唱歌及び提案曲に対する印象調査

(3) 教科書から消えた唱歌の印象調査の結果と考察

1) 消えた唱歌8曲の嗜好

昭和33年（1958年）から現在までの歌唱共通教材で教科書から消えた唱歌は次の8曲である。月（1年）、雪（2年）、村祭り（3年）、汽車（3年）、赤とんぼ（4年）、村のかじや（4年）、海（5年）、かりがわたる（6年）。歌唱共通教材から削除された8曲の中では、歌いたい曲として「雪」が77%と非常に高い関心を示し、ついで「赤とんぼ」が55%とかなり半数の児童が歌いたいと回答している。以上のように、「歌いたい曲」は2曲に留まった（表6）。一方、「あまり歌いたくない・どちらでもない」が半数を超える曲は、「月」「かりがわたる」

表6 消えた唱歌の嗜好

項目 曲名	歌いたい (人)	く あ ま り 歌 い た く な い (人)	い ど ち ら ど も な (人)	未 回 答	歌 い た い (%)	あ ま り 歌 い た く な い ・ ど ち ら ど も な (%)
月	38	84	76	1	19	80
雪	153	12	32	0	77	23
村祭り	42	76	77	4	21	77
汽車	62	55	80	2	31	68
赤とんぼ	109	46	40	4	55	43
村のかじや	78	54	64	3	39	59
海	70	65	61	3	35	63
かりがわたる	43	79	76	1	22	78

注：N = 199 「歌いたい」と「あまり歌いたくない・どちらでもない」の2群で示している。50%以上に網掛けをしている。

「村祭り」「汽車」「海」「村のかじや」と、8曲中6曲と多数を占めている。このことから、これら8曲の嗜好は、大きく2極化していることがわかる。特に、「月」「かりがわたる」「村祭り」については、75%以上の児童が関心を示していない。

2) 消えた唱歌の嗜好の理由

では、消えた唱歌のどのような点について「歌いたい」、または「歌いたくない」と感じているのだろうか。表7、8に示す。児童には、理由7項目より3つまで選択してもらっている。

表6に見られるように、特に、「月」「かりがわたる」「村祭り」については、好まれにくい曲である

表7 消えた唱歌で歌いたくないと思う理由（単位：人）

項目	メロディー	詩やことば	リズム	テンポ	音の高さ	けしきの浮かび方	歌にくい	計
月（1年）	19	7	26	32	66	22	28	200
雪（2年）	6	1	2	4	8	5	8	34
村祭り（3年）	19	24	31	21	36	29	49	209
汽車（3年）	13	11	26	19	31	20	42	162
赤とんぼ（4年）	7	2	16	23	20	7	26	101
村のかじや（4年）	17	12	18	23	20	25	35	150
海（5年）	18	12	32	37	32	24	30	185
かりがわたる（6年）	19	9	27	46	51	27	51	230
計	118	78	178	205	264	159	269	1271

注：40名以上（20%）の児童が良くないと捉えた項目、計の数値は上位3位までに網掛けを入れている。

表8 消えた唱歌で歌いたいと思う理由（単位：人）

項目	メロディー	詩やことば	リズム	テンポ	音の高さ	けしきの浮かび方	歌やすい	計
月（1年）	25	15	13	7	12	22	13	107
雪（2年）	79	41	87	90	16	66	59	438
村祭り（3年）	17	15	26	23	7	13	11	112
汽車（3年）	31	20	36	23	16	23	18	167
赤とんぼ（4年）	65	55	39	25	23	65	43	315
村のかじや（4年）	40	17	55	53	12	17	20	214
海（5年）	37	22	27	17	18	36	25	182
かりがわたる（6年）	27	12	21	11	10	13	17	111
計	321	197	304	249	114	255	206	1646

注：60人以上（30%）の児童が選択した項目に網掛けをしている。計の数値は、上位3位までに網掛けをしている。

表9 教科書に載せてほしいかどうか

曲名	項目	そう思う (人)	思わない (人)	わからない (人)	未回答	そう思う (%)	思わない・わから ない (%)
月 (1年)		44	78	70	7	22	74
雪 (2年)		153	12	27	7	77	20
村祭り (3年)		47	70	75	7	24	73
汽車 (3年)		63	56	75	5	32	66
赤とんぼ (4年)		111	33	45	10	56	39
村のかじや (4年)		65	53	71	10	33	62
海 (5年)		65	55	69	10	33	62
かりがわたる (6年)		50	67	66	16	25	67

注：N=199 %については、「そう思う」とそれ以外の「そう思う」+「そう思わない・わからない」の2群で示している。それぞれ50%以上に網掛けをしている。各項目の人数について、一番高い数値に網掛けをしている。

ことがわかる。「月」では、「音の高さ」に、「かりがわたる」は、「音の高さ」や「歌いにくさ」に、「村祭り」では、「歌いにくさ」が大きな理由になっている。これらの曲の中には、「暗すぎる」、「演歌だからいやだ」、「内容がよくわからない」などの意見も見られた。1回目の現行の歌唱共通教材の印象調査の結果と同様に、現代の暮らしからは想像しがたい内容のわかりにくさや歌詞の共感性のなさ、児童が普段親しんで聴いている曲とはかけ離れた曲の雰囲気などが関係していることが考えられる。

歌いたい曲として高い関心を示した「雪」、続く「赤とんぼ」は回答の選択肢が特に多い。「雪」は、4分の2拍子で弾んだリズムが特徴的で、歌詞も比較的容易に理解できる内容のものであり、季節感を感じられる曲である。「雪」においては「テンポ」、「リズム」、「メロディー」のほか「景色が浮かぶかどうか」に着目している児童が多い。これは、1回目の現行歌唱共通教材の印象調査の結果において述べたように、児童は、明るく、リズムカルな曲や季節感のある曲を好む傾向がここでも確認できた。「赤とんぼ」は、特に「メロディー」、「景色が浮かぶかどうか」に加えて、「詩やことば」に着目している児童が多く、8曲の中で一番高い。さらに、「赤とんぼ」がリズムカルな曲ではないものの、半数以上の児童が歌いたいと感じているのは、児童が「赤とんぼ」自体を知っていて曲のイメージを掴みやすかったり、メロディーの美しさを児童なりに感受し、歌いやすいと判断したりしたのではないかということが推察される。児童の嗜好が比較的高めの「村のかじや」が、「リズム」と「テンポ」の項目が高いことも、児童の嗜好の傾向と合致している。

3) 消えた唱歌で教科書に載せてほしい曲

次に、これらの唱歌のうち、教科書に載せてほしい曲か否かを尋ねた(表9)。「歌いたいかどうか」と「教科書に載ってほしいかどうか」の質問結果は、ほぼ一致していることがわかった。本調査では、児

童は「そう思う」、「思わない」、「わからない」の3項目から選択している。ここでは、「そう思う」と積極的に感じた児童数を重視するため、「思わない」と「わからない」の2項目を併せて%で表記している。ここでも、「雪」が153名(77%)、「赤とんぼ」が111名(56%)と過半数を超える児童が選択している。残りの6曲については、すべて33%以下の選択と低い数値に留まっている。児童が普段聴き慣れていない、消えた唱歌8曲の嗜好調査と教科書に載せてほしい曲の結果から、児童は、歌いたいと考える曲と教科書に載ってほしい曲は、ほぼ一致するといえる。ただ、「わからない」を選択した児童が多数存在している。「村祭り」「汽車」「村のかじや」「海」では、選択項目の中で「わからない」が一番高くなっている。このことから、児童は、教科書に載る曲と歌いたい曲についてどのように考えるべきなのか、または、歌いたいとは思わないが教科書には載ってほしいと思っている児童や、歌いたいとは思っているが、教科書には載ってほしいとは思わない・わからない、と思っている等、各児童の教科書に載る曲についての様々な思いがあることがわかった(表9)。

2. 提案曲の印象調査

(1) 選曲方法

2022年6月1日に、小学校高学年に対する提案曲について、音楽専門家4名により協議され、以下の6点について共通認識が示された。選曲をする際には、音楽教科書、歌集を参照している⁵⁾。協議の結果、「Believe」「大きな古時計」「大切なもの」「旅立ちの日に」「COSMOS」の5曲に絞られた。

- 1) はやり歌ではなく、長期にわたり児童生徒および一般にわたり歌われていること。
- 2) 歌詞の内容が共感を得やすいこと
- 3) 音楽専門家の経験や体験から得たことや現大学生の状況も加味していること
- 4) 曲の盛り上がる部分(サビ)があり、そのメ

- ロディラインが美しく、流れがあること
- 5) 音楽教科書または歌集に掲載されていること(児童の経験や記憶に残りやすいという意見から)
- 6) 集団で歌えること

(2) 歌唱教材の提案曲5曲の嗜好

提案曲5曲の中では、歌いたい曲として「Believe」が171名(86%)と非常に高い数値を示した。続いて、「大きな古時計」が149名(75%)も高い数値を示している。残りの3曲「大切なもの」「旅立ちの日に」「COSMOS」についても、およそ半数の児童が歌いたいと回答している(表10)。これら5曲は、音楽教科書や歌集に載っている曲であり、聴き覚えのある曲と認識している児童も多数いたのではないかとと思われる。

表10 消えた唱歌の嗜好

曲名	歌いたい(人)	あまり歌いたくない(人)	どちらでもない(人)	未回答	歌いたい(%)	あまり歌いたくない・どちらでもない(%)
大きな古時計	149	17	32	1	75	25
COSMOS	92	45	60	2	46	53
大切なもの	101	33	64	1	51	49
旅立ちの日に	96	35	67	1	48	51
Believe	171	8	17	3	86	12

注：N=199 50%以上が選択した項目に網掛けを入れている。

(3) 提案曲5曲の嗜好の理由

次に、提案曲では、どのような点について「歌いたい」、または「歌いたくない」と感じているのかを調査した。まず、「歌いたくない」と感じている理由を表11に示す。

5曲の中で「COSMOS」は、「歌いにくさ」を感

じた児童が比較的多く、「メロディー」、「音の高さ」等ほぼ全部の項目に対して否定的であることがわかった。感想として、「歌うのが恥ずかしい」「聴きたい、鑑賞したい」という感想も見られた。続いて、「旅立ちの日に」は、「テンポ」、「音の高さ」、「景色の浮かび方」の項目が比較的高めになっている。「大切なもの」は、特に、「音の高さ」や「歌いにくさ」を感じた児童が多い。「情景は浮かぶけれど、自分の声が低いから」という感想も見られた。これらの曲は、共通して後半が高音域の曲であり、テンポも緩やかな曲であるため、歌いにくさを感じる児童が多かったのではないかと。

次に、児童はどのような点について「歌いたい」と感じているのか、調査結果を表12に示す。特に人気のあった「Believe」は、「詩やことば」と「メロディー」に共感していることがわかる。「なつかしいから」、「勇気が出るから」、「安心感」、「昔みんなで歌ったから」のように心理的な感想が見られることから、共感度が大きな曲であると思われる。「大きな古時計」は、「懐かしいから」、「知っていて歌いやすい」、「小さい頃から歌っていて好きだから」、「なじみがある」、「なつかしい」といった幼少期から聞き覚えがある曲に共感する児童が多いと思われる。続いて「大切なもの」も、「メロディー」や「詩やことば」を選択した児童が多い。「めっちゃ優しい感じ」、「感動的」という感想も複数見られたことから、曲から受ける心理的な影響も選曲理由として大きいと思われる。これらの提案曲5曲については、合唱曲であったため、比較的にリズムやテンポはゆったりしていた。アップテンポの曲を提案曲にした場合での実践を今後行いたい。

表11 提案曲で歌いたくないと思う理由(単位：人)

項目	メロディー	詩やことば	リズム	テンポ	音の高さ	けしきの浮かび方	歌いにくい	合計
大きな古時計	7	7	7	9	8	6	5	49
COSMOS	29	21	17	17	27	24	29	164
大切なもの	15	6	13	14	20	12	24	104
旅立ちの日に	13	9	16	19	18	19	16	110
Believe	2	4	2	3	6	3	4	24
計	66	47	55	62	79	64	78	451

注：20名以上が選択した項目に網掛けを入れている。計の数値で上位3位までに網掛けをしている。

表12 提案曲で歌いたいと思う理由(単位：人)

項目	メロディー	詩やことば	リズム	テンポ	音の高さ	けしきの浮かび方	歌いにくい	合計
大きな古時計	90	73	50	43	27	64	69	416
COSMOS	55	33	38	42	20	19	33	240
大切なもの	63	61	39	43	25	31	29	291
旅立ちの日に	56	55	41	34	19	34	36	275
Believe	110	125	65	69	40	45	62	516
計	374	347	233	231	131	193	229	1738

注：各項目で60人以上(30%)の数値に網掛けをしている。計の数値は、特に高い2位までに網掛けをしている。

(4) 教科書に載せてほしい曲

次に、これらの提案曲のうち、教科書に載せてほしい曲か否かを尋ねた(表13)。

「歌いたい」という回答と「教科書に載せてほしい」という回答の傾向は、提案曲についてもほぼ一致していることがわかった。しかし、「大きな古時計」と「Believe」が僅差で逆転し、ここでは、「大きな古時計」が151名(76%)と一番高くなった。「Believe」の場合、未回答が29名とやや多いため、その影響もあったと考えられるが、145名(73%)であった。先に述べた「大きな古時計」の歌いたい理由として挙げた、幼少から聴いている曲でなつかしく聞き覚えがある曲で、メロディーや歌詞に共感を覚えていることが、教科書に載ってほしいと考える大きな要因ではないだろうか。

3. 2回目調査まとめ

昭和33年に当時の文部省の学習指導要領で決定された歌唱共通教材は、平成29年改訂の学習指導要領に至るまでに、8曲の歌唱教材が教科書から消えている。1989年以降は曲の変動はないため、現在の児童にこれらの曲はあまり知られていないと想定し、これら8曲を児童に聴いてもらい、その嗜好を調査した。その結果、以下の点が示された。

- ① 8曲のうち歌いたい曲として「雪」が圧倒的に多く、続いて「赤とんぼ」の2曲に集中した。
- ② 「月」では、「音の高さ」に、「かりがわたる」は「音の高さ」のほか「テンポの遅さ」に、「村祭り」には「音の高さ」に次いで「リズム」に歌いにくさを感じていると考えられる。
- ③ 弾んだテンポやリズム、歌詞も比較的容易で、季節感を感じられる曲を好む傾向である。
- ④ 個々に「メロディー」、「景色」、「詩やことば」を感受する力を持っている。
- ⑤ 「歌いたい」曲と「教科書に載ってほしい」曲はほぼ一致している。

次に、提案曲5曲についての印象調査の結果は、以下のように示された。

- ① 歌いたい曲として「Believe」、続いて、「大きな

古時計」が圧倒的に多い。

- ② 「COSMOS」では、「メロディー」、「音の高さ」、「テンポ」に歌いにくさを感じた児童が比較的多い。
- ③ 「Believe」「大きな古時計」は、「詩やことば」、「メロディー」をよいと感じている。また、「大きな古時計」は、幼少期から聞き覚えがある曲として共感する児童が多い。
- ④ 「歌いたい」曲と「教科書に載ってほしい」曲は、提案曲についてもほぼ一致している。

V. 3名の小学校音楽専科教員を対象としたインタビュー調査

1. インタビュー調査の概要

実施日時：2022年1月24日

実施場所：岡山大学教育学部附属小学校音楽室

対象者：小学校音楽専科教員3名

実施方法：3名の教員は、一人ずつ音楽室に入室し、事前に用意した質問項目について構造化インタビュー調査で質問11項目について回答してもらい、PCレコーダーで録音をとる。実施後、テープを起こし、記録する。

内容：質問11項目(①歌唱共通教材の扱いづらさ、②児童の反応が良い曲、③児童の反応が悪い曲、④新しく追加してほしい曲、⑤歌唱共通教材の問題点、⑥歌と唱歌以外のポップス曲等に対する児童の反応、⑦唱歌を授業で取り扱う意義、⑧授業で取扱いについて、⑨適切な授業時間数、⑩歌唱共通教材の中で教えた曲、良いなどと思う曲、⑪教科書に残ってほしい曲)

分析方法：項目別に3名の教員の聞き取り記録をもとに、3名の研究者(大学教員1名、大学院生2名)での協議を経て、インタビュー内容を要約し、重要語と文節を導き出した。

2. インタビュー調査の結果

このインタビュー調査は、本研究で調査対象とした児童に音楽を教える教員3名を対象としている。質問11項目の要約と重要語・文節の部分を記載する。

表13 教科書に載せてほしいかどうか

項目 曲名	そう思う (人)	思わない (人)	わからない (人)	未回答	そう思う (%)	思わない・わからない (%)
大きな古時計	151	18	24	6	76	21
COSMOS	61	41	35	62	31	38
大切なもの	96	33	58	12	48	46
旅立ちの日に	95	39	49	16	48	44
Believe	145	8	17	29	73	13

注：%について、「そう思う」とそれ以外の「そう思う」+「そう思わない・わからない」の2群で示している。それぞれ50%以上に網掛けをしている。その他の項目の人数については、一番多高い数値に網掛けをしている。

質問項目①歌唱共通教材の扱いづらさ

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 扱う時期が季節外れになる。 歌詞の意味の説明が必要。 他の歌より興味を持ちづらい。 	時期 歌詞 興味
B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが聴いている曲調と全然違う曲が多い。 歌詞の意味も分からない。 曲調も今の時代のもとは違う。 別世界のものに感じがち。 ふさわしい歌い方が分からない。 ふさわしい歌い方が分からない。 歌ってよかったという感覚がない。 	曲調 歌詞の意味 別世界 ふさわしい歌い方
C	<ul style="list-style-type: none"> 言葉が古い。 難しいから、言葉を知らないから思い入れられない。 普段聴かない曲である。 古い歌詞を言うのもいいと指導。 	言葉 昔からある曲 古い歌詞

3名の教員に共通して、時代や言葉の古さ、歌詞の意味の分かりにくさが指摘されている。これらは普段聴かない曲であり、子どもにとって興味を持ちづらい、別世界のものと認識されていた。一方、C教員は古い歌詞に対する指導の必要性を述べている。

質問項目②歌唱共通教材の中で、児童の反応が良い曲

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> かたつむりはリズム打ちとセットで、のって歌いやすい。 最初はリズムの話から始まる。 リズムカルなものから入ると良い。 静かな曲より元気な曲の方が良い。 学年の雰囲気静かだと、歌の時もおとなしい。 季節と歌の関連は話しやすい。 地味な感じの歌は盛り上がらない。 伝統的な旋律だが、かくれんぼはかくれんぼしながら歌うと盛り上がる。 わらべうたは、手を動かしながら歌った方がのりやすい。 虫の声はリズムと身体を動かす。 楽譜が読めないで、歌詞を配布している。 「トトロ」「北風小僧の寒太郎」「君をのせて」など昔の曲は「お母さんと一緒」で今もやっている歌いたい曲である。 色々な場所で歌われている。 普段から聴いたことがある。 	リズム 元気な曲 季節と歌 身体を動かして歌う リズムと体 歌詞の配布 昔の曲 色々な場所 歌いたい
B	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏のリズム。 歩いている速さ、歌っている歌詞が分かりやすい。 とんびの鳴き声が面白い。 鷹と鷺の比較を入れると面白い。 分かりやすい曲は反応が良い。 	リズム わかりやすさ とんびの鳴き声 の面白さ 分かりやすい曲
C	<ul style="list-style-type: none"> 鳴き方が面白い。楽しそうに歌っていた。 歌詞が時間の経過を表している。 歌詞から発見する。 	鳴き声の面白さ 歌詞 発見

児童の反応が良い曲として、「かたつむり」「春の小川」「茶摘み」「かくれんぼ」「虫の声」「とんび」、

教科書以外の曲からは、歌集の曲から「季節の歌」「北風小僧のかんたろう」「君をのせて」「トトロ」「世界に一つだけの花」「パレードホッホー」等が挙げられた。1年生の授業は、リズムの話から始まるため元気な曲がよく、手や身体を動かしながら歌える曲は、子どもたちがのりやすい。昔の曲でも、色々な場所で歌われている曲は普段から聴いたことがあるので、子どもが歌いたいと思っている曲がある。また、曲のタイトルやリズム、歌詞から曲のテーマがわかりやすいものや、とんびの鳴き声を面白がって楽しそうに歌っていたとのことだった。このように、リズム、身体表現、擬声語（鳴き声の面白さ）が児童の反応良い曲の主要な特徴と考えられる。

質問項目③歌唱共通教材の中で、児童の反応が悪い曲

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 静かな曲は盛り上がらない。 歌に消極的。 楽しい曲は盛り上がる。 	静かな曲 盛り上がらない 楽しい曲 盛り上がる
B	<ul style="list-style-type: none"> THE 日本 日本っぽい曲は苦しそう。 「越天楽今様」「おぼろ月夜」。 暗い、短調、ゆったり、高い自分の感覚と違うんだらう。 ゆっくりの曲は好きじゃない。 	日本っぽい曲 短調、ゆっくり、高い 自分の感覚と違う ゆっくりの曲
C	<ul style="list-style-type: none"> 「もみじ」合唱、声の重なりが難しい。 綺麗でゆったりしている。 	声の重なり難しい 綺麗でゆったり

静かな曲は盛り上がらないほか、暗い・短調・ゆっくりにした曲なのに音が高い曲といった特徴を挙げている。また、日本的な曲の感覚と児童の感覚との違いも述べている。C教員は、二部合唱も学習する「もみじ」について、子どもは声を重ねて歌うことに難しそうだという印象をもっていたが、綺麗でゆったりしているところがよい、と曲の良さを感じていたと回答をされていた。このように、児童は、静かな曲、短調でゆったりとした曲に対して反応が悪いと指摘されている。

質問項目④新しく追加してほしい曲

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 季節に関係があり、全世代が知っていて愛される歌が良い。 唱歌は古いものが多い。 もう少し新しい曲になれば教員は教えやすく、子どもは楽しく歌えると思う。 	季節 全世代が知っている 唱歌は古い 曲が多い 新しい曲 楽しく歌える

B	<ul style="list-style-type: none"> もう少し明るい曲が良い。 高学年になるほど暗い曲が増えると思う。情緒的な曲が多い。 暗い、ゆっくりばかりだとしんどい。 新しい曲を追加するというより、各学年均等になるような選曲になればよいと思う。 年が近い感じがする歌は、子どもも聴きやすいのだと思う。 	明るい曲 暗い曲 各学年均等な選曲
C	<ul style="list-style-type: none"> のりがいい曲があったらよい。歌唱共通教材は古めかしい印象がある。しかし、そういう曲(=古めかしい印象の曲)を教材に選んでいることにも意味があると思う。 古めかしい曲は日常生活で聴くことはほとんどないだろうし、今まで日本人が大切にしてきた曲を知ることが大切のため、歌った方がよい。 しかし、子どもたちにどう指導していくかは難しいと感じている。 	のりがいい曲 古めかしい曲 日本人が大切にしてきた曲を知る 指導の難しさ

唱歌について、古い、暗い、ゆっくりした曲に対してしんどいという印象を持たれているため、新しい曲、明るい曲、のりの良い曲を希望されていることがわかった。一方で、C先生からは日本人が大切にしてきた曲を知ることが大切だから歌った方がよい、と現行の歌唱共通教材に対して肯定的な発言が見られた。

質問項目⑤歌唱共通教材の問題点

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 古く、とりかかりにくいことが問題。歌い継がれてほしいとは思っている。 学校で歌わないと歌われない可能性が高い 歌唱共通教材は無くなってもいいと思うが、無くなってほしくないような思いもある。好きな曲だけ教えるというわけにはいかない。 さらっと歌って終わり、歌ったという事実をつくるために歌うというのは、どこでもあると思う。 	古い 取り掛かりづらい 学校でやらない と歌わない さらっと歌って 終わり
B	<ul style="list-style-type: none"> のりにくさが問題点。教科書や指導書だけだと何を大事に教えたらいいのか分かりづらく、自分で考える必要がある。 時代背景をふまえて聴くと、曲を伝えていく理由は分かるが、そこまでできない。 実際に歌う子どもと先生がその曲を良いと思ったり、教えたいと思っているのかが疑問。 時代は変わっており、昔はこういう風景だったと想像しろと言われても、想像しにくい曲が多い。 時代が変わっているのに歌唱教材の曲がずっと同じだったら、その曲の何が魅力なのか教師側に教えてほしい。 	のりにくさ 何を大事に教えたらいいか 曲の魅力 時代は変わっている
C	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や言葉の難しさを感じることもあるが、それが良さだとも思う。 意味が自分の中に入ってこなくても、言葉の響きが好き、普段使わない言葉の響きがかっこいいと感じることがある。 	言葉の響き 内容や言葉の難 しさを感じるが、 それが良いさでも ある

共通歌唱教材が古く取りかかりにくいことや、音楽ののりにくさを挙げられており、学校で歌わないと今後歌われない可能性があることも指摘されていた。一方、ここでC教員は、内容や言葉の難しさを感じることもあるがそれが良さだ、というように肯定的に捉えている。

質問項目⑥音楽授業で唱歌と唱歌以外のポップス曲等に対する児童の反応

教員	要約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 唱歌以外の曲はリズムが楽しい曲が多く、体を動かしながら歌いやすい。 歌詞の意味も分かりながら歌うと歌いやすい。 日本語の意味を理解することは、現代の曲を歌うときも大切。 現代の曲でも唱歌でも、歌詞の意味を教えるところで区切るかわかりやすくなる。 	歌いやすい 歌詞の意味
B	<ul style="list-style-type: none"> 反応は全く違う。知っているか知らないかの差は大きい。 曲を知っているから楽しい、があると、二部合唱にも挑戦したいと思う子が多い。 歌詞の意味が分からなくても、今起こっている自然現象だと想像でき、こんな風に歌いたいと考えやすいと思う。 いきなり曲を聴くのではなく、曲にまつわるものを見せるなど、曲のきっかけをつくるとよい。 できるだけ今の世の中のものをついて張ってこないと苦しく、歌唱共通教材はその点を考えないといけないうしんどい。 唱歌以外の曲だと、そのしんどさも子どもの反応も違う。 	知っているか知らないかの差 知っているから 楽しい とっかかり 今の世の中のもの
C	<ul style="list-style-type: none"> 唱歌ではない曲の方がのりはよい。 子どもの知っている知識を使え、歌詞も分かるため自分の考えを言いやすい。しかし唱歌だと最初は教えてもらうスタンスになってしまう。 自分たちで調べてもらおうとすると、音楽の授業でなくなってしまう。 	のりはよい 子どもたちの 知っている知識

3名の教員は共通して、ポップスは唱歌にくらべて、のりがよく、リズムが楽しい曲で体を動かしながら歌える曲、児童が知っている曲が多い点、また、歌詞の意味がわかりやすい点で、歌いやすいと考えている。

質問項目⑦唱歌を授業で取り扱う意義

教員	要約	重要語・文節
A	どの世代にも歌える曲があるのはよい。	世代 歌える曲

児童の立場から見た小学校音楽科における歌唱共通教材の検討

B	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材を通して郷土を愛する心を持つことだと思う。 曲が古いから、曲にちなんだ情報やネタが見つかりにくい、持ちにくい。だけど、しなくてはいけない義務感がある。 	郷土を愛する心 曲が古い 義務感
C	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材を通して日本人としての自覚を持つ。 日本が大切にしてきたものを大切に 自分が指導を頑張るしかないと思っている。 	日本人としての自覚 大切に 指導を頑張る

3名の教員は共通して、どの世代にも歌える定番の曲があること、唱歌を通して郷土を愛する心を持つこと、日本人としての自覚など述べている。これに対して、B教員は、歌唱共通教材の取扱いについては義務感を感じており、学習指導要領で決められているものだからしなくてはいけない気持ち強いことも述べている。一方、C教員からは、歌唱共通教材を通して日本人であることの自覚をもてることや、日本が大切にしてきた日本独自のものを大切にすることが意義であると、肯定的な意見が見られた。

質問項目⑧授業で取扱いについて

教員	要 約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 行事の都合で歌唱がおろそかになる。 指導要領における取扱い方に縛られている感はある。 	行事 縛られている感がある
B	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱共通教材って単発で終わる。 やらないといけないうから、やっつけでやっているとこもある。 子どもにものが良い曲を教師も歌わせたいから、そういった曲に時間を割いている。 意味があるのか。 共通教材は積み重ねになっているのか。 	共通教材は単発で終わる やらないといけないう 積み重ねになっていない
C	<ul style="list-style-type: none"> 義務感はない。 どこでも共通教材をやっていることに意味がある。 大切にしなければいけないもの。 	義務的な感覚はない 日本人として大切にしたい曲である

A教員、B教員学習指導要領における取扱い方に縛られている感じがあることがわかった。一方、C教員は、義務的な感覚はなく、どこでも歌唱共通教材に取り組むことに意味があり、日本人として大切にしなければならないものだと肯定的に捉えていた。

質問項目⑨歌唱共通教材を取扱うにあたって、適切な授業時間数

教員	要 約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 他分野もやらなくてはいけないため、1曲1時間で済ませる。 	1曲1時間

B	<ul style="list-style-type: none"> 現在は時間が足りないとは思わない。 公立だと副教科がカットされがちなので、余裕がなかった。 地域の行事のための練習に授業時間があてられることもあり、歌う時間がなかったこともあった。 	公立学校は時数ぎりぎり 副教科が授業時間を削られる(何とかなるだろうという教科)
C	<ul style="list-style-type: none"> 時間数は取れていないと思う。 行事があると歌がおろそかになる。 楽器に比べ歌は“すぐできる”感覚が強いため、軽く扱われる。 	取れていない 行事 歌は軽い扱い

取り組むことが多いため、1曲にかけられる時間は1時間であること、行事があると歌唱の領域がその時間に充てられ、器楽よりも軽い扱いを受けていることがわかった。B教員は、現在は時間が足りないとは思わないが、公立学校では副教科は削られてしまいがちのため、時数がぎりぎりであるとのことだった。

質問項目⑩歌唱共通教材の中で、教えたい曲、良いなどと思う曲

教員	要 約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 「冬げしき」言葉は難しいがメロディーは好き。 “やねより高い〜”ではない「こいのぼり」が印象的。 今の先生が取り組みやすい曲に再考した方がよいと思う。 盛り上がる、興味を持たせやすい曲が入ればよい。 	難しい言葉 メロディー 盛り上がる曲 興味を持たせやすい曲
B	<ul style="list-style-type: none"> 「おぼろ月夜」歌うのは好き。 「まきばの朝」鑑賞でやった方が面白い。 教えるのが好きではない曲がある。 	教えるのは好きではない曲
C	<ul style="list-style-type: none"> 先生自身、唱歌が結構好き。 知っている曲から学びに向かえる曲は抵抗感がない。 知らない＝抵抗感につながる。 「越天楽今様」「われは海の子」「もみじ」「ふじ山」は個人的に好き。 「とんび」「虫の声」が人気。 	唱歌が好き 知っている 抵抗感がない 知らない 抵抗感につながる

質問項目⑪教科書に残ってほしい曲

教員	要 約	重要語・文節
A	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2, 3年生の曲が多い。「かたつむり」「うみ」「虫の声」「春が来た」「かくれんぼ」 行事や季節に合わせられる曲。 共通教材ではなくてもいい曲がある。 歌集に入る曲 子どもは体を動かしながら歌ったりするし、ダンスを覚えている。 現代の曲を入れても良い。(いろんな種類、手話、ダンス付きなどたくさんある) 音楽自体は、昔よりもスピーディーに生まれている 	行事 季節 歌集 ダンス 現代の曲 スピーディー

B	・「ふるさと」は、6年生が最後に歌うように計画されている。 ・学校を巣立っていくということ、一緒に過ごした友達がいることを実感できる曲である。学校にとっても大切な曲である。	巣立ち友だちがいることを実感する曲 ふるさとである 学校
C	・「越天楽今様」の演奏形式(方法)から、“空気を読んで合わせる”“周りを見てやる”資質能力を身に付けてほしい。 ・道徳的な部分のこと。	音楽ではない資質能力 道徳的

現行の歌唱共通教材の中で、子どもたちに教えた
い・いいなと思う曲は、「虫の声(2年生)」「ふじ山(3年生)」「もみじ(4年生)」「冬げしき(5年生)」「こいのぼり(5年生)」「越天楽今様(6年生)」「われは海の子(6年生)」があげられた。また、教科書に残ってほしい曲は、「かたつむり(1年生)」「うみ(1年生)」「虫の声(2年生)」「春がきた(2年生)」「かくれんぼ(2年生)」「ふるさと(6年生)」「越天楽今様(6年生)」があげられた。A教員は、歌唱共通教材について、歌集に入っているような曲を推奨するなど、今の先生が取り組みやすい曲も必要ではないかと述べていた。さらに、子どもの体の動きとダンスの密接な関わりの大きさについても述べている。B教員は、友人や巣立ちを意識した「ふるさと」の大切さを述べている。C教員は、音楽以外の資質能力や道徳的な部分の育成も視野に入れている。

以上のように、各教員が教えた曲、残ってほしい曲については、教員それぞれの考え方や嗜好の影響が大きいと考えられ、教員間でも相違があることがわかった。

3. インタビュー調査の考察

教員に対するインタビュー調査の結果から、各項目ごとに、以下のような点が示された。

- (1) 教員自身も唱歌に対して「古い」という認識を持っている。(3名の教員共通)
- (2) リズム、身体表現、擬声語(鳴き声の面白さ)が児童の反応が良いと捉えている。
- (3) 静かな曲、短調でゆったりとした曲は、児童の反応が悪い曲の主要な特徴であると捉えている。
- (4) 新しく追加してほしい曲として、唱歌のような、古い、暗い、ゆっくりした曲に対して、明るい曲、のりの良い曲を希望している。
- (5) 共通歌唱教材は、古く取りかかりにくいこと、音楽ののりの悪さのため、学校で歌わないと今後歌われなくなる可能性があると考えている。

- (6) 児童の反応から、ポップスは唱歌にくらべて、リズムが楽しい曲で体を動かしながら歌える曲、児童が知っている曲が多い点、また、歌詞の意味がわかりやすい点で、歌いやすいと考えている。
- (7) 唱歌を取り扱う意義について、3名の教員にほぼ共通して、世代を超える、郷土を愛する、日本人の自覚が挙げられた。
- (8) 授業では、共通歌唱教材は、行事の都合等で単発になり、積み重ねになっていないと考えている。
- (9) 共通歌唱教材は、軽く扱われやすく、行事等でカットされやすいと考えている。
- (10) 各教員が教えた曲・いいなと思う曲は、教員それぞれの考え方や嗜好の影響が大きい。
- (11) 各教員が残ってほしい曲については、教員間でも相違がある。

3名に共通していた点は、教員自身も歌唱共通教材に対して「古い」という認識を持っていることである。その背景には、なじみのない昔の言葉や文語による歌詞の分かりにくさや想像しづらさのほか、比較的曲調が穏やかなものが多い点が要因として挙げられる。そのような唱歌やわらべうたが含まれる歌唱共通教材に対する子どもの関心を惹くために、教員は試行錯誤しており、子どもと同じような感覚を持ちながら指導にあたっていることがわかった。

しかし、共通教材の捉え方はそれぞれ異なっていた。A教員・B教員の2名は、歌唱共通教材に対して扱いづらさを感じており、自身の「とりかかりづらさ」、子どもの「のりにくさ」といった、教員自身が共通教材に対してあまり魅力を感じていないことや、子どもの興味・関心を惹くには、今よりも自由で現代の曲を取り入れた選曲を希望していることがわかった。また、授業時間を十分に取ることができないうち、学習指導要領において共通教材が必修事項であることに縛られていると感じておられた。B教員は「必ずやりなさいと言われているからやる」と述べており、必修事項として存在する共通教材そのものに対して疑問を持っていることがわかった。

一方で、C教員は共通教材を学ぶことに対して義務的な感覚はなく、むしろ大切に組み込んだ方がよいとの考えであった。共通教材の学習を通して、日本人が大切にしてきた曲を知り、日本人としての自覚や誇りをもつことを意義と捉えていた。児童の反応がよい曲について、A教員は、今の児童が楽しんで良く歌う曲として、「トトロ」「北風小僧の寒太郎」「君をのせて」等を挙げていた(質問項目②)。これ

らはいずれも現在の児童が生まれる以前の曲であるが、リズムに乗りやすく、歌詞もわかりやすい曲である。このような児童自身が自然に歌いたいと思う曲も大切にしていけるべきである。

以上のように、調査を通して、三者三様な点もあったが、教員の視点から共通教材を取扱う現場の現状や共通教材の問題点を明らかにできた。

VI. 総合考察—新しい選定基準に向けて—

本研究では、児童の立場から見た現行の小学校歌唱共通教材に対する質問紙調査及び、児童の音楽的嗜好の調査、消えた唱歌に対する質問紙調査、提案曲の印象に関する質問紙調査、併せて音楽教員の歌唱共通教材に対する捉え方も対面調査を行った。質問紙調査では、児童が知っているが歌唱教材、知らない歌唱教材、提案曲、普段親しんでいる楽曲など多角的な視点から、児童が歌いたいと思う曲とそうでない曲の特徴について検討を行った。また、教員に対する対面調査では、指導者の立場からの歌唱共通教材に対する考え方や課題を検討することができた。

これらの検討の結果、小学校音楽科における歌唱共通教材の新しい選定基準について検討を行った結果、今を生きる子どもにふさわしい曲について、以下5点の特徴があげられた。①メロディーがよい、②明るくリズムカルな曲調、③景色が浮かび、季節感のある曲、④歌詞のわかりやすさ、⑤詩やことばに共感できることである。子どもは自身の嗜好をもとに曲の特徴を捉え、曲のよさ・よくなさを自分なりに感受・判断できる力をもっており、子どもは自分自身でお気に入りの曲を見つけられるということがわかった。大人が子どもの愛唱歌を決める必要はなく、むしろ共通教材の選択の自由さや子どもの嗜好に寄り添った選曲の必要性を訴える裏付けとなった。

これらを踏まえ、共通教材として意義のある教材にするためには、子どもたちが音楽に向かう関心や意欲をもって取り組める、子どもの目線になって楽曲の選定が再考される必要がある。今を生きる児童に教える曲は、生活に根差し、児童が好むリズムやテンポを取り入れた歌、詩の内容に共感できる歌であるべきである。今後も、「歌うこと」の本質を見据えた歌唱教材の選択とは何かを問い続けていきたい。

謝辞

ご多忙の中、調査にご協力いただきました3名の附属小学校の先生方、5年生、6年生の児童の皆さま

んに心より感謝いたします。

付記

本論文は、大学院教育科学専攻岸本未希の令和4年度岡山大学教育学研究科修士課程教育科学専攻修士論文「小学校音楽科における歌唱共通教材の選定基準に関する研究」に加筆修正したものである。なお、本研究は、2020年9月に岡山大学教育学研究科倫理委員会の承認を得ている。

注

- (1) 山本文茂(2004)「共通教材」日本音楽教育学会編『音楽教育学事典』音楽之友社、p.318の一部をまとめた。
- (2) 夏は来ぬ、雪、つばさをください、とんぼのめがね、シャボン玉、ちいさい秋みつけた、やぎさんゆうびん、村祭り、ほたるこい、大きな古時計、夕日が背中を押している、赤い屋根の家、友だち、ももたろう、きんたろう、うらしまたろう、上を向いて歩こう、大きな栗の木の下で、未来へ等、前半に示している曲を記載した。
- (3) 酒匂美貴子・狩野貴一・村尾忠廣・嶋田由美(2015)、常任理事会企画プロジェクトI『歌唱共通教材』2年次『音楽教育学』45-2、pp.33-40よりまとめたものである。
- (4) 「チューリップ」や「海」の作曲家。国民学校音楽教科書の編集委員、戦後の新制度下における音楽教科書中学校教科書編集委員を担当している。
- (5) 見市紀世子(2018)「あなたが好きな童謡・唱歌」朝日新聞朝刊3月31日・田中啓介(2019)「心に残る卒業ソング」朝日新聞朝刊、3月30日・大村美香(2021)「今こそ！聴きたいみんなのうた」朝日新聞朝刊、3月13日・編集者教芸音楽研究グループ(2017)『楽しい歌とコーラス歌のミュージックランド』教育芸術社・編集者教芸音楽研究グループ(2020)『歌はともだち6訂版』教育芸術社を参考に協議した。

引用・参考文献

- 中央審議会(2016)「中央教育審議会答申幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(平成28年12月21日)、pp.1-243。
- 後藤田純生(1977)「子どもの求めている歌は何か—歌唱教材についての再提言—」『季刊音楽教育研究』冬号No.10、音楽之友社、pp.88-95。

権藤敦子 (2013) 「小学校における教材選択の問題 - 高野辰之「国定読本と唱歌との連絡」(1913)を手がかりに-」『広島大学教育学研究科紀要 初等教育カリキュラム研究』1号, pp.33-45.

古市勝重 (1977) 「音楽体験と教師の役割」『季刊音楽教育研究』秋号No.13, 音楽之友社, pp.4-10.

石井宏美・虫明眞砂子「小学校音楽科における歌唱共通教材のあり方について」『岡山大学教師教育開発センター紀要』第1巻, pp.57-68.

井上武士 (1967) 『音楽教育明治百年史』株式会社大永社

岩井宏之「総合的に見て」『音楽教育研究』昭和44年3月号, 音楽之友社, pp.48-53.

岩河三郎 (1972) 「子どもの歌の行方」『音楽教育研究』No. 6, pp.82-89.

岩崎弘 (1972) 「歌謡曲を歌う子どもをどう扱っているか-バカとハサミは使しよう」『音楽教育研究』N0.74, 音楽之友社, pp.106-108.

河口道朗(1991)『音楽教育の理論と歴史』音楽之友社

近藤幹雄 (1977) 「音楽教育委の目標と「精選」のゆくえ」『季刊音楽教育研究』夏号, No.12, 音楽之友社, pp.24-31.

真篠将編著 (1986) 「昭和33年の学習指導要領」『音楽教育四十年史』東洋館出版社, pp.87-119.

松村直行 (2019) 『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』和泉書院

溝部,ちづ子, 緒方,満, 押川,貞生, 中村,孝, 道法, 亜梨沙(2020)「小学校教員養成課程の学生における『歌唱共通教材』認知度に関する一考察-大学1年次学生の実態調査を通して」『比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究 = Review of the Research on Teachers Training 6』, pp.27-38.

三好恒明 (2004) 「歌唱教材」日本音楽教育学会編『音楽教育学事典』音楽之友社, pp.234-235.

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 音楽編』教育芸術社

大地宏子 (2019) 「歌唱共通教材と音楽教育現場の関係についての今日的課題-小学校教員採用試験における中学校歌唱共通教材の認知度の視点から-」『現代教育学部紀要』第11号, pp.1-11.

酒匂美貴子・狩野貴一・村尾忠廣・嶋田由美 (2015), 常任理事会企画プロジェクトI 「『歌唱共通教材』2年次」『音楽教育学』45-2, pp.33-40.

佐野靖 (2006) 「共通教材の問題性」音楽教育史学

会編『戦後音楽教育60年』開成出版, pp.113-120.

鈴木渉・伊藤綾 (2011) 「歌唱共通教材の履修度と周知の状況を調査する=歌い継がれる曲の価値に関する考察=」『山形大学紀要(教育科学)』15(2), pp.163-184.

津田正之・江田司・中山美恵子・後藤丹・嶋田由美 (2014), 常任理事会企画プロジェクトII 「歌唱共通教材」『音楽教育学』44-2, pp.47-54.

山本文茂 (1994) 「音楽教育に共通教材は必要か」『教職研修: あすの教育を拓く理論と実践』教育開発研究所, pp.158-160.

山本文茂 (2004) 「共通教材」日本音楽教育学会編『音楽教育学事典』音楽之友社, pp.318-320.

山本陽子 (2019) 「歌唱共通教材に関する一考察 共通教材の誕生と変遷, 学生の認知度調査から」『敬愛大学国際研究』32号, pp.27-43.

資料1 歌唱共通教材の認知度調査(岡山大学調査: 2022年10月8日, 12月14日, 15日実施 単位: 人)

項目	4	3	2	1
うみ	73	35	3	1
かたつむり	94	14	3	1
日の丸	3	7	16	86
ひらいたひらいた	14	52	31	15
かくれんぼ	19	42	31	20
春が来た	94	17	1	0
虫の声	59	33	10	10
夕焼けこやけ	69	33	9	1
うさぎ	31	44	18	19
茶摘み	41	39	17	15
春の小川	35	42	23	12
ふじ山	17	27	24	44
さくらさくら	43	55	8	6
とんび	18	41	24	29
まきばの朝	6	16	26	64
もみじ	48	35	17	12
こいのぼり	11	20	13	68
子守り歌	33	47	23	9
スキーの歌	4	10	27	71
冬景色	4	11	17	80
越天楽今様	1	3	14	94
おぼろ月夜	27	26	26	33
ふるさと	99	12	1	0
われは海の子	27	28	25	32

注) N=112 1と4の上位6位までに網掛けをしている。
 4 よく知っているし大体歌える
 3 まあ知っているが歌えない
 2 聞いたことがある
 1 ほとんど知らない